

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）課題評価委員会

とりまとめ：高橋一孝

1 評価委員

- 委員長 岩田智也 学識経験者
山梨大学工学部循環システム工学科 准教授
- 委員 羽田金祝 生産者（漁業）
山梨県漁業協同組合連合会 副会長理事
- 委員 津野正康 生産者（養殖）
山梨県養殖漁業協同組合 代表理事組合長

2 評価委員会

(1) 第1回 平成23年9月27日（火） 水産技術センター本所

①事前評価課題「ニシキゴイ稚魚飼育におけるハエサナギの投与効果」 主任研究員 青柳敏裕

- 課題設定の必要性 5点 山梨県は有数のニシキゴイ産地であり、歩留まり改善の必要性は高い。
- 課題の新規性・独創性 5点 サナギ投与は新規性が高い。
- 目的・内容の整合性、妥当性 4点 優良魚と非優良魚の生残率の違いについても検討してほしい。
- 研究手法の的確性、技術的可能性 4点 研究手法は的確である。
- 成果の期待度 5点 成果に大いに期待したい。
- 総合評価 4.6点 低魚粉化飼料の開発に大いに期待する。

《センターとしての対応》

- ニシキゴイは、県内養殖業の重要魚種であるので、安定生産に寄与していきたい。
- 形付魚（優良魚）と雑（非優良魚）の生残率の違いについても検討していきたい。

②事前評価課題「トウモロコシ蒸留粕（DDGS）を使用した低魚粉飼料試験」 研究員 名倉 盾

- 課題設定の必要性 5点 魚粉の高騰が進むなか社会的ニーズは高い。
- 課題の新規性・独創性 5点 DDGSの有効活用という点で新規性は高い。
- 目的・内容の整合性、妥当性 5点 目的、内容ともに妥当である。
- 研究手法の的確性、技術的可能性 4点 DDGSの安定供給についても視野に入れて頂きたい。増肉単価を正確に測定して欲しい。
- 成果の期待度 5点 大いに期待する。
- 総合評価 4.8点 低魚粉化飼料の開発に大いに期待する。

《センターとしての対応》

- 魚粉の供給状況は、非常に不安定である。今後も、魚粉の替わりとなる原料について研究していきたい。

○有効性の評価については、増肉単価により実施するが、正確に実施していきたい。

③事前評価課題「ワカサギふ化仔魚の絶食に伴う組織学的変化」 主任研究員 岡崎 巧

| | | |
|-----------------|------|------------------------------------|
| 課題設定の必要性 | 5点 | ワカサギは貴重な観光資源であり、研究の必要性は高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 4点 | 従来からの研究テーマであるが、引き続き課題に取り組んで頂きたい。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 4点 | ワカサギのみならず、餌であるプランクトンについても検討して頂きたい。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 5点 | 研究手法は的確である。 |
| 成果の期待度 | 5点 | 富士五湖の観光漁業の振興のため、大いに成果に期待する。 |
| 総合評価 | 4.6点 | 河口湖における不漁の原因解明に努めて欲しい。 |

《センターとしての対応》

- 河口湖におけるワカサギ不漁の原因の解明を実施していく。
- 幼稚魚期の餌はワムシであるが、餌の動向も調査していきたい。

④事前評価課題「寒沢モニタリング調査」 研究員 坪井潤一

| | | |
|-----------------|------|------------------------------|
| 課題設定の必要性 | 5点 | 在来魚の保全において必要性は高く、引き続き行って欲しい。 |
| 課題の新規性・独創性 | 4点 | 従来からの継続調査である。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 5点 | 目的、内容ともに妥当である。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 4点 | 集団の有効サイズについても検討して頂きたい。 |
| 成果の期待度 | 5点 | 保全、管理への成果の活用を期待する。 |
| 総合評価 | 4.6点 | 在来魚の絶滅を阻止するため、さらなる努力をお願いする。 |

《センターとしての対応》

- 渓流域の在来のイワナやヤマメは、危機的な状況にある。
- 在来魚の絶滅阻止のため、更なる努力をしていきたい。

⑤事前評価課題「富士五湖における漁業実態の解明」 支所長 大浜秀規

| | | |
|-----------------|------|----------------------------|
| 課題設定の必要性 | 5点 | 観光漁業振興のため、必要性は高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 3点 | 新規性は高くないが、継続して実施して欲しい。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 4点 | 目的、内容ともに妥当である。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 5点 | 統計データの詳細な解析をお願いしたい。 |
| 成果の期待度 | 4点 | 当該漁協との情報共有を図って欲しい。 |
| 総合評価 | 4.2点 | 今後とも継続して実施できる体制づくりを考えて欲しい。 |

《センターとしての対応》

- 富士五湖の漁業実態を解明し、技術開発や指導支援の方向性を明らかにしていく。

⑥事前評価課題「カワウの食性調査に基づく被害対策の効果検証」 研究員 芦澤晃彦

| | | |
|-----------------|------|-----------------------------|
| 課題設定の必要性 | 5点 | 全国的な問題であり、必要性は高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 5点 | カワウの抑制対策はきわめて独創的である。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 4点 | 研究課題名を再考して欲しい。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 5点 | 技術的には確立されているので、引き続き推進して欲しい。 |
| 成果の期待度 | 5点 | さらなる食害軽減につなげて欲しい。 |
| 総合評価 | 4.8点 | センターの最先端の技術をさらに前進させて欲しい。 |

《センターとしての対応》

- 課題名を、「カワウの食性調査に基づく被害対策の効果検証」に変更した。
- ドライアイスによる繁殖抑制は確立されているので、より効率的な漁業被害の軽減を実施していく。

⑦事前評価課題「希少魚類生息調査」 研究員 加地奈々

| | | |
|-----------------|------|-------------------------------|
| 課題設定の必要性 | 5点 | メダカは絶滅危惧種であり、必要性は高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 4点 | 他県との情報交換も密にしていきたい。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 4点 | 行政と連絡を取り合い生息地保全につなげて欲しい。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 4点 | 在来魚の生息域推定は慎重に行って頂きたい。 |
| 成果の期待度 | 5点 | 成果に期待したい。 |
| 総合評価 | 4.4点 | 県内の生息環境悪化をくい止め、希少種の保全に努めて欲しい。 |

《センターとしての対応》

- 市町村や地域住民と情報を共有し、連携をとりながら生息地保全につなげていきたい。

⑧事前評価課題「クニマスの生態解明及び増養殖に関する研究」 主任研究員 青柳敏裕 研究員 加地奈々

| | | |
|-----------------|------|--|
| 課題設定の必要性 | 5点 | 山梨県は現時点で唯一の生息地であり、社会的ニーズは高い。 |
| 課題の新規性・独創性 | 5点 | 新規性、独創性はきわめて高い。 |
| 目的・内容の整合性、妥当性 | 5点 | 目的、内容ともに妥当である。 |
| 研究手法の的確性、技術的可能性 | 4点 | 研究項目が多岐にわたるため、人員不足にならないようにして頂きたい。 |
| 成果の期待度 | 5点 | 県内外で期待は大きい。 |
| 総合評価 | 4.8点 | 西湖、環境省、研究機関と連携をとりながらクニマスの研究と管理を行って欲しい。 |

《センターとしての対応》

- 西湖漁協・環境省・他の研究機関と連携をとりながら、研究と管理をおこなって行きたい。
- 人員については、主担当は2名であるが、センター全員で取り組んでいく。

(2) 第2回 平成24年1月23日(月) 水産技術センター本所

①事後評価課題 「ニシキゴイ稚魚の飼育成績向上の検討」 主任研究員 青柳敏裕

| | | |
|----------|----|-------------------------------|
| 研究目標の達成度 | 3点 | 未実施の実験及び今後の検討課題(コストなど)が残っている。 |
|----------|----|-------------------------------|

| | | |
|-----------------|------|---|
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 4点 | 品質向上はニシキゴイ生産者にとって重要であり、成果は非常に有用である。 |
| 研究の発展性 | 3.5点 | 品質向上が需要拡大につながることから、本研究の発展性は高い。 |
| 研究課題選定の妥当性 | 4点 | 課題選定は妥当である。 |
| 総合評価 | 3.6点 | 山梨県のニシキゴイ生産量は全国でも高く、本研究は重要である。未実施試験や検討課題を今後も継続して行ってほしい。 |

《センターとしての対応》

○ニシキゴイ生産をする上で、稚魚期の歩留まり向上は重要な課題である。コスト等の課題が残ったことから、試験の継続について検討したい。

②事後評価課題 「山梨県産アユ種苗特性評価試験」 研究員 坪井潤一

| | | |
|-----------------|------|---|
| 研究目標の達成度 | 5点 | 各種苗の定着率や釣られやすさの違いが明らかとなっており、目標は達成されている。 |
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 4.5点 | 各漁協からのニーズは高く有用性は高い。 |
| 研究の発展性 | 5点 | 研究の発展性は高く、今後も継続して欲しい。 |
| 研究課題選定の妥当性 | 5点 | 研究課題は妥当である。 |
| 総合評価 | 4.9点 | 研究成果を是非、種苗放流事業に活用して欲しい。 |

《センターとしての対応》

○県内河川に放流されるアユ種苗に占める当所産種苗の比率は高い。この研究成果を今後の放流効果の向上に役立てたい。

③事後評価課題 「寒沢モニタリング調査」 研究員 坪井潤一

| | | |
|-----------------|------|-----------------------------------|
| 研究目標の達成度 | 4.5点 | 継続的な研究により、期待通りの成果が得られている。 |
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 4.5点 | 河川管理に役立つ知見が得られており、有用性は高い。 |
| 研究の発展性 | 4点 | ダムのスリット化など新たな河川管理が進むなか、研究の発展性は高い。 |
| 研究課題選定の妥当性 | 5点 | 他県に先駆けて行われた研究であり、選定課題は妥当である。 |
| 総合評価 | 4.5点 | 他県に先駆けて行われた研究であり、選定課題は妥当である。 |

《センターとしての対応》

○砂防ダムが設置されている流域での生活史や個体群の維持機構が明らかになった。今後は、在来個体群の保全等を河川管理者・遊漁者への指導普及を行っていききたい。